



## コミュニティ・スクールを基盤とした小中連携教育の取組

### 向東中学校オープンスクール・部活動体験

8月3日(木)に、向東小学校6年生が、向東中学校オープンスクールに参加しました。中学校の先生による模擬授業や部活動見学を行い、中学校の雰囲気を知り、具体的な中学校生活をイメージする良い機会となりました。また3月11日(月)と15日(金)には部活動体験を行い、4月からの中学校生活の不安を少しでも取り除く取組へとつなげています。



### 小中合同研修会・合同作業部

小中合同研修会で、学校運営協議会の林原副会長を講師として招き、「今子ども達に求められている力」というテーマで講話と演習をしていただきました。また「学力向上部会」「豊かな心と体育成部会」「地域社会貢献部会」の3つの部会に分かれて、PDCAサイクルの実践を進めてきました。3月13日(水)には「豊かな心と体育成部会」が計画した、小中レク交流会を行いました。体を動かす楽しさを伝えることができました。



小中合同研修会



### 向東地域学校運営協議会

2月20日(火)に、第4回向東地域学校運営協議会を開催しました。「1年間の取組状況(小中合同研修会、作業部会等の取組・学校評価他)」等に対して、各委員の皆様から貴重なご意見をいただくことができました。来年度に生かし、小中学校連携による9年間の教育を更に充実していこうと思います。

【各委員の皆様からのご意見等】

・向東の特色は「対話」であると思う。その中で小中ともに「広がり」と「深まり」という次の課題が見えてきている。今後どんな取り組みを考えているのか。また小学校では、1年生と6年生では、到達目標が異なると思うが、どう考えているのか。また、中学校では「対話的に」がプレッシャーになる子供もいるのではないのか。

【小学校】学年ごとの到達目標は、低学年などは「自分の考え方を認知する。」ことも対話に繋がっていて、自分自身と対話することも大切になってくると考えている。対話について、来年度もう一度どのようにして実践していくのかを作業部会で話し合っていく。またキーワードについても分かりやすいものを考えていきたい。

【中学校】集団作りが大切だと考えている。「分からない時に分からない」といえる関係ができれば1番の対話なのではないかと考える。教える子もよりかみ砕かないと相手に伝わらない、それも学びだと思う。新しい生徒会も集会を復活させている。試行錯誤しながら取組を進めていきたい。

・対話については「3つのD」があるのではないのか。1つ目は「ディベート」で討論である。批判的に考える能力も必要なのではないか。2つ目は、「ディスカッション」で議論を繰り返してよりよい解を求める。1番重要なのは「ダイアログ」だと思っていて、相手の意見を批判せず受け入れる対話であると考えている。そういう対話を学校教育に入れることによって学校に来づらい子供や家庭に居場所がない子供も少し居場所を見つけることができるのではないかと考える。そういった対話を授業だけでなく職員間でもできると先生も成長していくと思う。時代と共に教育は変わるが、先生へ求められるのは人間らしさだと思うので、子供にその姿をみせてほしいと思う。コミュニティ・スクールのスタートは学校の荒れを地域とともに解決を目指すものだったが、時代や教育の変化と共に教育の為、学校の為にどうするかを考えるようになった。この協議会もお互いに学び場や何かできないかを考える場になっているのではないかと考える。